

平成 25 年度 第 4 回日本生物物理学会運営委員会議事次第

日時：2013 年 10 月 28 日（土）12：20～13：20

場所：京都国際会館 5F Room 553

出席者：難波、七田、石島、有坂、神取、須藤、高田、高橋、瀧ノ上、出村、寺北、永井、林、政池、南野、村上、石渡、由良、片岡、太田、秋山、篠原、寺沢、曾我部、永山、垣内

報告事項：

1. 平成 25 年度年会報告（七田）：**報 1**

七田委員長より本年会の状況が報告された。演題登録数は 1,088 件（一般 945 件，シンポジウム 143 件），事前参加登録は 1,163 名（年会諸費用未払いでキャンセル 128 名），事前懇親会登録は 497 名であった。また，ランチョンは 12 枠，展示は 43 小間，予稿集広告 29.5 ページ，アプリバナー広告 2 件であった。展示会場への集客のため抽選会を企画した。予算案としては，収入合計 25,760,150 円，支出合計 25,940,320 円となっている。

2. 平成 26 年度年会準備状況（出村）：**報 2**

出村委員より，平成 26 年度の北海道年会について準備状況が報告された。会期は 2014 年 9 月 25 日（木）～27 日（土）であり，会場は札幌コンベンションセンターである。予算案としては，収入合計 2,290 万円，支出合計 2,313 万円となっている。収入増・支出減による黒字化を検討する。また，コンベンションセンターを全館借りず，部分借りにするので予定より 200 万円安くなることが説明された。

3. 平成 28 年度（2016 年度）年会開催地について（難波）：**資料なし**

難波会長より，平成 28 年度の年会開催地について説明があった。東京で開催し，豊島陽子先生に実行委員長をお願いすることが報告された。

4. 日本学術会議公開シンポジウム報告（難波）：**報 4**

難波会長より，日本学術会議公開シンポジウム「医学・生命科学の革新的発展に資する統合バイオイメージングの展望」について報告があった。2013 年 9 月 17 日（火）日本学術会議講堂において生物物理学分科会主催の公開シンポジウムが開催され，次期大型研究施設・研究拠点「統合バイオイメージング研究拠点の設立」に関する提案が行われた。

5. 法人化後の会計年度について（片岡）：**報 5**

片岡法人化担当より会計年度に関する説明があった。従来の案では，年月日と会計年度のずれが生じるため，会費納入の際に混乱が生じる可能性が高いなど，問題が指摘されていた。新しい案では，平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日を「平成 25 年度」，平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 4 月 30 日を「平成 26 年度第一期」，平成 26 年 5 月 1 日～平成 27 年 4 月 30 日を「平成 26 年度第二期」，平成 27 年 5 月 1 日～平成 28 年 4

月 30 日を「平成 27 年度」とするため、年月日と会計年度のずれが生じず問題が解決できる。この場合、会費請求システムで対応が可能である。26 年度会費：12,000 円（平成 26 年度第一期＋平成 26 年度第二期）として請求・管理ができる（振込取扱票に請求内容を記載する）。

6. 邦文誌「生物物理」冊子体購読報告（石島）：資料なし

石島委員より邦文誌「生物物理」冊子体の購読に関して説明があった。来年から邦文誌の冊子体の送付を廃止するが、図書館（機関会員）はオンデマンド印刷で対応する。希望者には有料での送付を行い、一般会員 4 件の送付希望があった。HP 委員会によると web 版のダウンロード数は 800 名であり、今後も宣伝を続けていく。

7. BIOPHYSICS の J-STAGE 投稿審査システムの利用について（石渡）：報 7

J-stage の有料化について説明があった。来年度から年間 15 万円の費用がかかる見込みである。

8. 会員システム e-naf 関連報告（神取・政池・須藤）：報 8

須藤委員から、e-naf オンラインの名簿システムについて報告があった。選挙システム管理画面（入力文字数表示機能・コピー機能）、選挙システム投票画面（チェックボックスの位置設定）、名簿システム検索画面の表示に関して、4 項目に費用が掛かる。ただし、チェックボックスに関してはプログラムのバグだったので、費用無しで対応してもらった。また、検索画面の表示機能に関しては、10/25 から実装され使えるようになった。

議題：

1. 平成 26 年度予算案の承認（高田）：議 1

高田委員より、平成 26 年度予算案が示された。平成 26 年度第一期の当期収入は 18,630,000 円、前期繰越は 47,812,600 円、収入合計は 66,442,600 円である。平成 26 年度第一期の当期支出は 9,135,000 円、次期繰越は 53,307,600 円である。平成 26 年度第一期終了時に決算を行う。平成 26 年度第一期と平成 26 年度第二期は会計上では別の年度である。平成 26 年度第二期の当期収入は 41,370,000 円、前期繰越は 57,307,600 円、収入合計は 98,677,600 円である。平成 26 年度第二期の当期支出は 50,672,750 円、次期繰越は 48,004,850 円である。本案は、運営委員会にて承認された。

2. 賛助会員の会費・年会参加資格について（難波）：議 2

難波会長より、賛助会員の会費・年会参加資格について説明があった。賛助会員の年会費を 2 万円から 3 万円に値上げすることを検討している。これは H26 年度から行う予定である。賛助会員団体に所属する個人は、参加人数 1 名を限度として会員資格での年会参加を可能とし、発表も可能とする案が示された。本案は運営委員会で承認された。

3. Microscopy の宣伝形態について（難波）：議 3

顕微鏡学会の Microscopy 誌から論文を投稿して欲しいとの宣伝の要請があり、難波会長から、Microscopy 誌の宣伝の形態について説明があった。生物物理学会としては宣伝協力を行うことが決まった。方法としては、HP への掲載し宣伝することとなった。

逆に顕微鏡学会にも生物物理誌を宣伝してもらえよう要請する。他の雑誌に関しても宣伝依頼が来た場合は協力しても良いが、生物物理学会員にメリットになる雑誌を宣伝することにする。なお、**Microscopy** 誌には本年会で機器展示のところで宣伝してもらっている。

4. 滞納 3 年以上の会員の除籍と会員数の推移について（政池・神取・須藤）：議 4

須藤委員より、滞納 3 年以上の会員の除籍と会員数の推移について説明があった。例年は年末の運営委員会では出される議題であるが、今回は法人化の関係で、一回早く今回の運営委員会で議論する。関係者が含まれている場合、会費納入の周知をするよう要請があった。除籍処理後の会員数は、3200 名程度となると予想される

5. 研究領域の多様性および質の確保に関わる基盤情報調査について（難波）：議 5

学協会から来た研究テーマの多様性確保に関するアンケートについて説明があった。本来なら会員からのアンケートを取って反映して返答するべきだが、今回は「特に無いということ」で返答した。今後は必要であればワーキンググループを設置することになった。科研費において、新しい分野は次元付き細目として採用される。

6. 関東支部と中部支部の構成地域について（難波）：議 6

難波会長から関東支部と中部支部の構成地域について説明があった。新潟は関東・中部支部の両方へのアクセスが可能であるため、両方の支部に参加できるように、規約と HP への記載をすることが決まった。

7. 投稿規定の改訂について（石島）：議 7

石島委員より、投稿規定の改訂について説明があった。Web 版・電子化に伴い、文字制限を緩めて「約」を追加することになった。目次・トップページにグラフィックアブストラクトを掲載することも提案された。本案は運営委員会で承認された。林委員より、会誌に英語記事を投稿できるようにしても良いのではないかと提案があったので、次期邦文誌委員会で検討することになった。一方で、英語記事に関しては、**Biophysics** 誌との兼ね合いもあり検討が必要であるので、**Biophysics** の編集委員会でも議論することとなった。

連絡事項：

1. 次回運営委員会日程について（難波）

新旧合同委員会 10 月 28 日（月）18：40～19：40 国立京都国際会館 5F Room 553

第 5 回運営委員会（新運営委員会）

10 月 30 日（水）13：30～14：30 国立京都国際会館 1 階 Room F